



# 日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

NOVEMBER 2017

会報誌 | vol. 51 no. 6

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

## 理事会報告 2017年10月24日(火)

出席 (敬称略) グレシャム、山川、仲、細谷、鶴、阿部 (事務局)

### 1. 予算

事務局から上半期の予算状況の説明があり、ほぼ予算通りに推移しているとして承認された。

### 2. 財政問題 (継続)

総務委員会での取り組みの説明があった。

現状の予算状況から、このままでは財政が破綻するのは必須。そのため

- ・事務局経費の圧縮が必須であり、事務局機能を委員会、会員各社へ分散。
- ・残った事務局業務を外部委託。
- ・実際の費用を試算、検討するため委託先の情報の収集から始める。

これに対し、収入増の方策も模索しながら経費圧縮の検討を進めるよう、総務委員会に諮問する事とした。

### 3. 推薦理事紹介

阿部英徳氏 (株式会社 三善社長) の紹介があった。

### 4. 委員会報告

- ・総務：上記の検討を継続する。
- ・メディア・広報：新メンバーも加わり、会報の内容も一新したい。
- ・文化・厚生：関西パーティーは21名の参加があり、盛会だった。
- ・事業：久々に神保町BFにワゴンでの出品をする。TIBFに比して規模は小さいが、集客は望める。

### 5. その他

理事長の会員訪問を再開する。前回以降に入会した会員と移転した会員を中心に訪問し、意見を聞く。

## 関西懇親パーティー

今年の関西懇親会は9月15日(金)大阪第一ホテルの宴会場にて行われ、10社、21名の方々にご参加頂きました。

午後6時30分より文化厚生担当委員の倉上氏(タトル出版)の開会の挨拶で始まり、理事長のグレシャム氏(MHM)より乾杯のご挨拶をいただいてパーティーは進みました。

たくさんの美味しい料理と多種にわたるドリンク

が用意される中、皆さん最後まで食事を楽しみ、お酒もすすみ、会話も弾んでいっしょにいました。

ゲストとして在関西企業である(有)藤井洋書の関谷氏、オーヴィス(株)の小山氏をお迎えし、参加会員の皆様と交流を深めました。

中締めは事業委員長の石谷氏(丸善雄松堂)の一本締めで8時30分に閉会となりました。

## フランクフルト・ブックフェア2017に参加して

私はフランクフルト・ブックフェアにほぼ毎年参加していて、今回はおそらく25回目くらいではないかと思います。主催者発表によると、今年の参加者数は、昨年よりも3%伸びて286,000人だったそうです。東京国際ブックフェア2017は中止になってしまいましたが、フランクフルトはまだ元気です。毎回の会報で、様々な方がこの展示会について、その歴史や意義も含めて詳しいレポートを執筆されていますので、私自身が面白いと感じたことや気づいた点を報告させていただきます。

ブックフェアの初日、フランクフルト中央駅からメッセ会場までの約1キロ弱を歩いて行く度、少しの緊張と気温が10度以下という寒さも手伝ってか毎回頬に軽い痛みを感じていました。ただ、最近はその寒さが足りず、自分の面の皮が厚くなったせいかなその痛みを感じなくなっています。今回も比較的暖かで、雨も降らずほぼコートは不要という気候でした。

メッセ会場は、中央の広場を囲んでHall 3 (German Publishers), Hall 4 (Asian Publishers, Art, & Science), Hall 5 (International Publishers), Hall 6 (英語圏)が並んでいて、弊社のブースはHall 4.2 Scienceにあります。ドイツ語圏を担当している同僚の話では、年間の新刊発行点数は約8万点、日本と同様にドイツ出版業界は縮小傾向とのことでした。

しかしながら、隣に位置するHall 3は毎回盛況です。(推定)幅100m x 奥行50m x 高さ30mの巨大な建造物の中に上下2つの展示フロアがあります。他ホールとの違いは、学生が多くいること。学校の先生がメッセ会場につれてきて見学をさせています。その際、少人数のグループに分かれ、その行先は学生に任せている感じです。そしてHall 3のいたるところに(屋外の中央広場にも)、数十名が座れるようなスペースが有り、著者を囲んでの座談会を開いており、どこも多く聴衆がいます。料理教室を開いているところや(料理本の出版社がサポート)、ワイン試飲用カウンターとワイン本を展示しているブース、フランスパンの販売とパン作りの本を展示しているブースなども有ります。このブース担当者によると、元々パン屋なのだが2年前から出版を始めたとのこと。出版を始めるのは比較的簡単だけど、継続していくのはたいへんなので頑張りたいと思いました(そこで買ったパンはとても美

味しかった)。Hall 3に活気があるのは、出版物を大切にするというドイツの文化とともに、学生を含めた若い人達が多くいること、様々なところで開催しているイベント、「本もいいけど、団子もね」という人向けのブース等があるからかも知れません。

個人的なことで楽しい出来事がいくつかありました。中央広場で朗読とピアノ演奏をしていたので(言葉が理解できないのに)聴いていたら、ワインを片手にパフォーマンスを楽しんでいるオジサンと目が合いました。約30年前日本事務所に数か月滞在した編集担当で、その後Springerを退社し、地元で出版社を設立。独立し余裕のある姿を見ることができて嬉しかったです。また、数年前に別の会社に移った元営業責任者が、来年からその会社CEOになるというニュース。その他にも久しぶりに会えた元同僚達がありました。出版業界は狭い世界です。フランクフルト中央駅近くのホテルにカサブランカというバーがあり、業界関係者のたまり場となっています。客は他の働き先の情報を肴に立ちっ放しで夜遅くまで飲んでいるようです。

Springerは今年設立175周年を迎えていて、ブックフェア期間中の金曜日午前、メッセ脇にあるホテルで、著者や業界の方にお越しいただきレセプションを開催しました。洋書を含めた日本の出版業界がもっと活発になるため、何が必要なのか、自分に何ができるのかを考えさせられるブックフェアでした。

(Springer Nature 営業部書籍担当 大中 和茂)



## 海外ニュース

### 国際出版社ランキング 2017

Rüdiger Wischenbart Content and Consulting が実施している国際出版社ランキング(“The Global Ranking of the Publishing Industry”)の2017年版が公開され、イギリスに本拠をおく5つの出版社で、上位50の出版社の収益の4分の1を占めた。

イギリスの5社で132億ユーロ(103億ポンド)の収入があり、2016会計年度の総売上高の24.5%を占めた。対してアメリカの8社は合計145億ユーロでじつに27%を誇る。ドイツも上位50社に8つの出版社がランクインし、収益は80億ユーロ、14.8%。

今年度のランキングの大きな変更点は、2016年度には5社がランクインしていた中国の出版社が、ランキングから除外されたことだ。中国政府が方針を変更し、出版社に経済的基準だけのランキングに協力しないよう

要請したためだ。

1位はPearsonで、2016年の26億ポンドの税引前損失と、それに続く大量の従業員解雇という困難にもかかわらず、これで9年連続の1位となった。2位は、イギリス、オランダ、アメリカに本社をおく旧Reed Elsevier、現RELXグループ。

イギリスの出版社は、当然ポンドで会計報告しているが、ユーロでの売上はポンド安のためにあまり好ましくない結果を生み出している。2015年と比較して2016年は14%のポンド安であり、ユーロ換算では9%の売上減となる。

今年50位ぎりぎりに滑り込んだのは、日本の出版社、新潮社で、1億4800万ユーロ(1億3540万ポンド)だった。

### 《 1 ~ 12 位までのランキング 》

	LY	PUBLISHER	PARENT GROUP	PARENT'S HQ	2015(M)	2016(M)	DIFF(%)
1	1	Pearson	Pearson PLC	UK	€6,072	€5,312	-12.5%
2	3	RELX Group	Reed Elsevier PLC & NV	UK/NL/US	€4,774	€4,600	-3.6%
3	2	ThomsonReuters	Woodbridge Company	Canada	€4,824	€4,593	-4.8%
4	NA	Bertelsmann	Bertelsmann AG	Germany	€3,827	€3,503	-8.5%
5	4	Wolters Kluwer	Wolters Kluwer	NL	€3,143	€3,206	2.0%
6	8	Hachette Livre	Lagardère	France	€2,206	€2,264	2.6%
7	10	Grupo Planeta	Grupo Planeta	Spain	€1,658	€1,790	8.0%
8	9	McGraw-Hill	Apollo Global...	US	€1,681	€1,674	-0.4%
9	11	John Wiley	John Wiley	US	€1,545	€1,646	6.5%
10	15	Springer Nature	Springer Nature	Germany	€1,471	€1,625	10.5%
11	14	Scholastic	Scholastic	US	€1,494	€1,594	6.7%
12	12	HarperCollins	News Corp	US	€1,527	€1,569	2.8%

(The Bookseller, 08 September 2017より抄訳)

情報提供:MHM 遠藤尚子

外国人に  
おすすめの

# Books on Japan

新連載 第1回

チャールズ・イー・タトル出版  
花井 陽子

この度、「外国人におすすめの Books on Japan」というテーマでの執筆のご依頼をいただきました、タトル出版の花井と申します。

「Books on Japan」とはそのままズバリ「日本に関する本」であるのですが、この「Books on Japan」という今やジャンルの名称になっているこの言葉自体がどれほど世間的に知られているものなのか、私自身の知人や友人、親戚などに自分が今携わっている物事について説明する時に心許なく感じる事がしばしばあります。これらの書籍は洋書売り場のある書店の一角に置かれていて、日常的に書店を訪れる日本人の目に留まることはほとんどないのかもしれませんが。そこは必然的に需要がある場所にこそ輝く棚であり、そしてそういったエリアは、東京オリンピックが近づきつつある今は増えているものの、全国の書店を見回しても、まだまだ一部といえるでしょう。書店の中ではマイナーな位置に属するジャンルですが、それでも、私は前職で書店員としてその棚を担当していた時から現在に至るまで、Books on Japan というジャンルに携われることを、とても誇りに思っているのです。というのも、Books on Japan が多ければ多いほど、日本について知りたいと思う外国人に、それに応えることのできる書籍を豊富に提示できます。そうすることで、多くの人の「知りたい」という欲求に応えることができる。あるいは、国レベルで自分たちがどういう人間でどういった歴史・文化・社会を持っているのか、良いことも悪いことも含め、外国語で解説・紹介してくれる本がある、という安心感があります。そして自国に関する文献が豊富にあることは世界的に見て、幸運なことだと思います。このように考えるのは、私自身過去にチェコ語というマイナー言語の学習に携わり、歴史や文化を学ぶ際に日本語あるいは英語で読める参考文献を探すのに大変苦労した経験があるからなのです。苦労して知る経験もまた醍醐味ではありますが、それでも「知りたい」の取っ掛かりが豊富にある方がより幅広いニーズに応えられ、理解をその先へと進めることができます。

外国人の知りたいに応えられ、日本人の応えたいにも応えられる書籍、それが Books on Japan なのです。しかしながら「外国人におすすめ」の書籍をいざ提案しようとする、随分と困惑してしまいます。「売れている」本を提示するのはデータを参照すればいいので簡単です

が、対象が「外国人」であり、薦める私が「日本人」であると、一筋縄ではいかないという実感が強いのです。Books on Japan において弊社の書籍のように「洋書」もあれば「和書」もあります。また著者が外国人のものもあれば、日本人のものもあります。書店員時代に感じたことは、日本人が良いと思うもの、ビジュアル的に共感できるものは、必ずしも外国人にも受けるわけではない、ということです。外国人が描き出す日本に対する違和感、それは多くの日本人が実感として持っているのではないのでしょうか。写真にしてもイメージのカラーや被写体の選択、そのアングルなどは驚くほど違ってきます。日本人である私が売りたいと感じる書籍が外国人には受けが悪く、表紙からもあまり惹かれない本が Books on Japan ベストセラーだったりします。日本人が外国に見せたい日本と、外国人が見ているあるいは見たい日本というのは大分違う、この事実を受け入れ、そしてその違いを楽しむことができれば、Books on Japan とはなかなか面白い世界なのではないかと思えます。実際、日本人は外国人によって日本を常に再発見しているように思われます。

余談ですが、タトル入社時にこんな話を聞きました。どうやら目の色によって見える世界の色もそれぞれ違うようです。青い瞳と黒い瞳では光を取り込む量が違うようで、私達が見る色は光の反射であることを思い出せば、なるほど色も違って見えるのでしょう。赤一つとっても、青い瞳にとっては赤でも黒い瞳にはオレンジといったこともあります。一般的に青い瞳はコントラストの高い鮮やかな色彩が好まれるようで、黒い瞳はコントラスト低めの淡い色彩が好まれるようです。こんなビジュアルの違いも Books on Japan では見ることができません。

このように、悩ましくも興味深くもある Books on Japan をめぐる数々のギャップを時に嘆きつつも面白いと感じ、日本人にも是非興味を持っていただければという思いが強く、つい長々と綴ってしまいました。そんなギャップと向き合いながらも、出版社である私達は毎月「オススメ」の新刊を書店に送り出しています。当初いただいたテーマに辿りつく迄に随分と長い前置きをしてしまいましたが、次回以降、外国人のみならず日本人にも薦めたいような珠玉の Books on Japan の数々を絵本や旅行記、写真集に語学書といったジャンルから皆様にご紹介させていただきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

# 我が社・わが街

## 第11回 目白 雑司が谷

絵本の家

小松崎敬子

目白駅は池袋と高田馬場に挟まれて、かなり地味です。鶯谷に次いで、山手線で二番目に乗降客の少ない駅ですので、わが社に来てくださるお客様の中には「東京生まれだけれど、初めて目白駅で降りました」という方がかなりいらっしゃいます。でも歴史はありますよ。なんと明治18年(1885年)にできた駅で、日本ではじめて作られた橋上駅舎でもあります。私が学習院大学に通っていた50年前も今も、山手線一筋、近くに地下鉄の駅もない、そんな駅は新大久保と大塚(荒川線あり)、田端?や鶯谷も?? あれ、結構ありましたね。

駅のすぐ隣には学習院があり、鬱蒼とした木々に囲まれた院内には幼稚園、大学、男子中等科、高等科があり、駅近にしてはかなり広い学校です。堀部安兵衛が高田馬場の決闘の後に血刀を洗ったと言われる「血洗いの池」も院内にあります。昔々のことになりましたが、私はテニス部でしたので、院内マラソンで足腰を鍛えていました。院内は一周するとほぼ1km、何周もすると足も上がらなくなり、池のまわりの木の根に足を取られて、ポッチャンという人もいました。(わたしではありません)

目白通りの反対側は川村学園、目白小学校、消防署に警察署と続きます。絵本の家は目白駅から学習院側を歩いて6分ほど、飲み物を買おうと思っても、その間なんと自販機の一つもないという珍しい街です。よく駅まわりにある焼肉屋や一杯飲み屋なども少なく、洋書協会の方たちがいらしてもお連れするところに困ってしまいます。浜松町や水道橋、神保町が羨ましいと、わが社の酒豪の小向奈保子と始終嘆いています。

フレンチではこじんまりした美味しいお店が三軒あります。小回りが利いて、いろいろリクエストができるので、友人の集まりには人気があります。因みに最近で好評だったのは、春のアスパラガス三昧と夏のスッポン尽し、どちらもワインにばっちりでした。

目白で有名なのは椿山荘、細川邸、永青文庫、田中邸あたりですが、ちょっと距離があります。絵本の家近くでは、千登世橋を超えた先に地下鉄副都心線が通って、2008年に雑司が谷駅が出来ました。このあたりにくると目白とは趣ががらりと変わります。橋から下を見ると都電荒川線がのんびりと走ります。荒川線の最寄り鬼子母神駅。鬼子母神堂には樹齢700年を超える大銀杏が鎮座ましましています。大公孫樹と言うそうですが、ごつごつと飛び出した根っこに、薄汚れた白猫が昼寝をしている図など、我が社から5分のところですけど、「ここは一体どこ? 江戸時代?」かと、一瞬、夢をみているかのようです。落ち込んでいるときでも、この銀杏の木を見ると「なんだ、私の憂鬱など、何ほどのことか」という気になります。皆様もぜひいらしてみてください。日曜日には羽二重団子本舗がおせん団子屋を境内の大黒堂で開店します。もしも、となりで鬼平がお茶を飲んでいたとしても何の違和感もない風情があります。

目白、雑司が谷、鬼子母神、カテドラル教会、椿山荘にいらしたら、ぜひ絵本の家のお店にも寄ってください。12時から18時まで、年末年始以外は年中無休です。写真のメンバーたちが日替わりでお店番をしておりますから。



Pharmaceutical Press が発行する医薬品情報データベース

# MedicinesComplete






## 主な収載タイトル

- Martindale : The Complete Drug Reference
- British National Formulary (BNF)
- Stockley's Drug Interactions
- Pharmaceutical Excipients
- Drugs in Pregnancy & Lactation (Briggs)

**無料トライアル**  
**受付中!!**



-  65万ページ分に及ぶ最新の医薬品情報を掲載するオンラインリソース
-  シンプルで明瞭なインターフェイスと直感的なナビゲーション
-  PC, タブレット, スマートフォンからアクセスが可能

株式会社 南江堂 洋書部

東京都文京区本郷 3-42-6 Tel: 03-3811-9950 Fax: 03-3811-5031

E-mail: [adv-yosho@nankodo.co.jp](mailto:adv-yosho@nankodo.co.jp)

日本洋書協会会報 vol.51 No.6(通算549号) 発行日2017年11月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523  
URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:[office@jaip.jp](mailto:office@jaip.jp)